

令和4年建設市民委員会会議録

1. 招集年月日 令和4年9月26日
2. 招集の場所 可児市役所5階全員協議会室
3. 開 会 令和4年9月26日 午前11時15分 委員長宣告

4. 審査事項

1. 報告事項

(1) 長洞地内の漏水について

2. その他

(1) 議会報告会について

5. 出席委員 (7名)

委員長	山根一男	副委員長	松尾和樹
委員	伊藤健二	委員	中村悟
委員	酒井正司	委員	川上文浩
委員	伊藤壽		

6. 欠席委員 なし

7. 説明のため出席した者の職氏名

水道部長	溝口英人	水道課長	千田泰弘
------	------	------	------

8. 職務のため出席した者の職氏名

議会事務局長	宮崎卓也	議会総務課長	杉山尚示
議会事務局書記	今枝明日香	議会事務局書記	中水麻以

○委員長（山根一男君） それでは、お疲れのところだと思いますけれども、これから建設市民委員会を始めたいと思います。

これより議事に入りますけれども、発言される方は、挙手をして、委員長の許可を得てからマイクのスイッチを押して発言をお願いします。

まず、協議題に入る前に、私は前回、欠席させていただきました。スキームのほうにつきましては、これが協議題だったわけですが、お認めいただきました。ですので、それについて、これから肅々と皆さんと意見をしっかりと交換しながらやっていきたいなと思っております。

では、協議題1の報告事項、長洞地内の漏水についてを議題とします。

この件につきまして、執行部の説明を求めます。

○水道部長（溝口英人君） 本日、お時間をいただきましてありがとうございます。

実は、今日の報告させていただくこと、前回の委員会中に起きたことでもございまして、そのときに報告できるのが一番ベストだったんですけれども、当日も処理をしておりましたので、御了承いただきたいと思っております。

幸い大ごとにはならなかったのですが、少し時間が空いておりますけれども、今日報告させていただいたというところで、よろしくお願ひしたいと思っております。

それでは、内容につきましては水道課長から報告させていただきます。

○水道課長（千田泰弘君） 報告事項1. 長洞地内の漏水について報告させていただきます。

資料1を御覧ください。

今回の漏水の発生日時ですが、令和4年9月8日木曜日、午前5時頃に通報がありました。漏水が発生した送水管は、ダクタイルの铸铁管で、ファイが450ミリ、布設年は昭和48年に施工されたものになります。

漏水箇所になりますけれども、資料の位置図を御覧ください。

市道の21号線です。愛岐ヶ丘の団地から長洞方面に下がったところの信号交差点がございしますが、そこから北に向かって300メートルぐらい行ったところで発生しました。位置図の赤いマークが出ているところですね、こちらのほうで漏水が発生しました。

通報を受けて現地を確認しまして、その右側にございしますが、漏水の状況の写真になります。これがちょうど6時ぐらいの状況になります。

そして、6時ぐらいから水道課職員、可児市管設備協同組会と連携し、復旧の準備を進めました。

漏水状況の写真を見ていただくと分かりますけれども、ちょうど道路のセンター辺りから水が噴いているような状態でしたので、市道21号線を全面通行止めにて作業を進めています。この間、市民の方には迂回路等で御迷惑をおかけいたしております。各迂回路には交通誘導員を配置し、ホームページ等で周知のほうはさせていただいております。

その下、写真になりますけれども、修理の状況ということで、一番左の写真が送水管を掘

り出して漏水箇所を特定したところの写真でございます。人の拳が入るぐらいの穴が確認できると思います。

そちら、右に行きまして、復旧の状況の写真でございます。

復旧方法としましては、袋ジョイントと呼ばれる復旧資材で、破損している部分を根こそぎ包み込むような部材がございますので、そのような形で漏水箇所を補修していきます。

そして、一番右の写真が埋め戻し状況と、その下に舗装を復旧して完了の状況になります。トータルで当日の夕方6時半ぐらいには全面開放できております。

今回の漏水で、断水等による市民に対する直接的な被害はございませんでした。

漏水の原因としましては、電食によるものだと考えられます。電食というのは、土壌と管との間に微量の電気が走っておりまして、その電気によってダクタイル鋳鉄管が溶けてさびが出ると。そこからまた鋳鉄管が破損する、そのような現象が起きます。そこで拳大の破損が生じたと考えられます。これをマクロセル腐食と一般に呼んでおります。

今回の推定漏水量ですけれども、時間当たり200立方メートルぐらいの漏水がありました。10時間で、トータルで2,000立方メートルぐらいの漏水になります。

その後の対応としましては、周辺の同年代に布設された、昭和48年に布設された送水管ですね、こちらのほうの路面音聴調査を700メートルぐらいにわたって緊急に点検しております。その点検の結果、漏水音は確認はされておられません。

今後、漏水調査には力を入れて臨んでまいりたいと考えております。以上です。

○委員長（山根一男君） 以上の報告、説明に関しまして、質疑等ございませんか。

○委員（酒井正司君） 2点お伺いしたいんですが、まずこの鋳鉄管、一番振動に弱い、いわゆる通行量、あるいは車の重量が増してくると非常に危険なものですが、どれぐらい残っているかということがまず1点目。この鋳鉄管、古い管がね。

それともう1点は、この漏水というのはあくまでも事故なので、県水、受水のほう、まけてもらえないんですか。どうなんですかね。

○水道課長（千田泰弘君） ダクタイル鋳鉄管の延長ですけれども、市内の全域の配水管の距離が694キロほどございます。その中から、ダクタイル鋳鉄管に至っては、ちょっとここに資料があるのはビニール管の資料しかありませんので、また詳しい数字は後日お伝えさせていただきます。

県水のほうを受水槽ですけれども、今、第2低区配水場のほうから受けた水をそのまま愛岐ヶ丘のほうに送水しておるような管でございますので、そちらのほうはもうダイレクトな数値として受けておりますので、その減免というのはございませんので、早期に修理をするということが我々の使命だと感じております。以上です。

○委員長（山根一男君） ほか、質疑はございませんか。

○委員（伊藤健二君） 御苦労さんでした、大変な中。偶然うちの家族が、こんなに嘔き上げておるぞとって、おやじ知っておるかといって言われまして。ホームページに載っていたのは見ましたけど、水道部のホームページの中のほうまで行かないと道路関係が止まってい

るという表示がなくて、現場は大変だったと思うんだけど、知らない市民は全然知らなくて。翌日だったか、当日だったか、この委員会で水道管が破裂しておるらしくて今大変みたいだよといって話をして、状況を聞こうかといって今日来ていただいておりますよね。本当にお疲れさまでした。

今、酒井委員からも質問がありましたけど、ダクタイトイル鑄鉄管、昔の方式ですよ。50年前はこれがもう標準的にやられてきたんだけど、これをビニール管に置き換えてきて、中圧というんですか、幹線の水を送っていくほう。これ、しかし、はぜると今回のように大変な事態になるので、今後も予測していく必要があるわけですよ。管はもつのかといえば、もう昭和48年だから約50年ですよ。どんだけ残っていて、それをこのままいつはぜるか分からない状況をにらめっこしながら、路面音聴調査、漏水の予兆を知る、700メートル音響を調べていったということやけど、これは定期的にやるとか何とか、そういう特別な対策を取っていかんと、はぜてから、今回は偶然うまく抑えられたけど、すつといかないとなると、貯水槽を1つ空にする、そうすると今度は断水という問題になって、市民から苦情が当然殺到するわけで。そうなる前のできることを、まだ十分検討していないのかもしれないけど、その辺をちょっと考え方を教えていただけませんか。簡単で結構ですけど。

○水道課長（千田泰弘君） 現在、漏水調査と呼ばれるものですが、これを市内全域を4分割なりにして、毎年120キロから150キロぐらいになると思うんですけども、路面の音聴調査というものを必ず実施しております。そこで見つければ、もうすぐさま修理をするんですけども、なかなかそういうふうにはいかないのが現実でございます。

あと、給水管ですね、皆さんの水道メーターのところで漏水を発見するという対応もしております、こちらで年間6,000件とか7,000件、全部で3万6,000件ほどございますので、4年か5年で必ず市内1周できるような形で漏水の調査を実施しております。以上でございます。

○水道部長（溝口英人君） 先ほどダクタイトイル鑄鉄管のお話をされたと思うんですが、実はダクタイトイル鑄鉄管、今、この関係では一番信頼のおける管種なんです。ダクタイトイル鑄鉄管が悪者にされてしまうと少し、技術的な問題があるんですけども、大口径になりますと、それなりの圧に耐えられる、やはり鑄鉄が一番理想だとされております。

ただ、ここの管につきましては、その開発当時の昭和48年当時、つまり今50年ぐらいたっているものなんですけど、実は厚生労働省が言っているのは60年ぐらいもつと言われていたんです。ただし、後半になってきているので、こういう電食というものが度々発生がしやすくなってきていることは間違いありません。

ですので、今、千田課長が申しましたように、やっぱり漏水調査でなるべくそこを調べていくというのが我々の今、使命かなと思っておりますので、やっぱり土質によって弱いところ、全然大丈夫なところというのは、差はどうしても出てきますので、やっぱりそこをちょっとポイントをつきながら、なるべく効率的な確認をしながらというのが今の状況でございますので、ダクタイトイル鑄鉄管を今後、また技術が進歩すれば変わる可能性はありますけれど

も、まずは今の口径に対してダクタイル鋳鉄管は使っているということで御理解いただきたいなというふうに思っております。以上です。

○委員（川上文浩君） これだけの漏水の状況を見ると、やはり私もそうですし、市民の皆様もやっぱり、素人はすごい漏水の量なんだろうなあというふうに勘違いしてしまうので、実際にこの事故でどれぐらいの漏水量があったのかということと、ぱっと写真を見させてもらおうと、これだと前々からもそんなたくさん漏水しているような雰囲気じゃないなというような、水害の現場なんかを見ているともそう感じるんだけど、その漏水量というのは全体的にこの箇所どれぐらいの量になったのかなというのは、大体でいいけど、こういうのは分かるもんですか。

○水道課長（千田泰弘君） 今回の漏水に限って言うと、中央監視室で流量を計測しておりますので、この漏水が発生した管での漏水量は2,000トンぐらいが余分に流れ出たという結果が残っております。2,000立米ですね。

○水道部長（溝口英人君） 参考のために、年間の水量で、分母で割ると、0.15%ぐらい。ちょっと目安、あくまでも数字上のものですので、市内でもほかでも起こっている可能性があるという数字だというふうに御理解いただきたいと思います。

○委員長（山根一男君） そのほか、質疑等ございますか。

○委員（伊藤健二君） だから、決して鋳鉄管が悪者だとは言っていないんだけど、それが60年もつが、50年目まで差しかかってきて、何だかいろいろと個体差が当然出てきて、土質によってもと言われたんで、だから、裂け方、壊れ方が、破損の仕方がいろいろあるんだよね、きっとね。今回は、すかっと裂けて、そこがこのアスファルトを引き剥がして、その間から一定の幅を持ってぶわっと出ているみたいに見えるけど、何か248号のルートの上からも水が噴き上げていたのが見えたとかいう話が、町内のうわさで聞いたけど、そういうふうにやっぱりぶわって上がっていたんじゃないんですか。朝の6時にこの状態だから、ここを剥がして、道路の白線の真ん中辺から水が出ておるけど、見ると管自体は草の生えた端っこのほうに埋設してあるんだよね。だから、水が回って路面の上へ噴き出しておるという状態なんでしょう、状況的には。いろんなところへしみ出して、一定の深さのところへやっぺあるから、真っすぐそのまま破損したところから上へ必ず水が出てくるというわけじゃないんだよね。だから、ずうっと前から出ていたかもしれないわけでしょう。で、ある日、ばかっと裂けるという、そういうこともあるんでしょう。

○水道課長（千田泰弘君） そうですね。急に漏水したからすぐ水柱が上がるとか、そういうのは考えにくくて、順番にちょっとずつ穴が空いて行って、だんだんちょっとずつしみ出して、弱いところから水が出てくるというのが漏水の発見するところなんですけれども、先ほど委員言われたように、水柱が上がってというような、そこまでの状況ではないと思います。今回、発見したとき、水圧が全く変わっておりませんので、これが最大の状態だと考えております。この道路の一番最初の写真ですね、こちらが最大で噴き出たと。この状態で、大体、ほかの市道でもそうですけれども、これぐらいの水柱といますか、水が噴いた状態で発見

するのが普通、こんなような感じで発見するというのが多いです。

○委員長（山根一男君） ほか、ございませんか。

〔挙手する者なし〕

発言もないようですので、この件に関しましては終了したいと思います。

いいですか。

○水道部長（溝口英人君） この場をお借りして、ちょっと報告がございまして、我々も昨日の話でしたので緊急な話なんです、実は静岡県の方風15号における水道の断水、それの対応としまして、今、可児市が給水車1台、それから職員2人、緊急で今、向こうに応援で行っております。昨日から5日間、木曜日までを予定しております。向こうで小学校で水を配るお手伝いをしておりますので、報告だけさせていただきます。以上です。

○委員長（山根一男君） よろしいですか。今の報告ということで、特に。

それでは、ありがとうございます。

議事の都合により、暫時休憩としたいと思います。

休憩 午前11時49分

再開 午前11時52分

○委員長（山根一男君） それでは会議を再開したいと思います。

続きまして、その他事項にはなりますけれども、議会報告会についてを議題としたいと思います。

現状決まっていることについて私のほうから紹介いたします。

一応、外国籍キーパーソン会議の方たちを対象に11月20日、もしくは11月27日、日曜日ですけれども、この日は午前中にもともとキーパーソン会議があるということですので、まず会議をしてもらった後で、この議会報告会のほうでまた発言してもらおうというような段取りがいいんじゃないかということで、まだ調整中でございますけれども、そういうような流れをしております。あと、題名につきまして、外国籍の人の学ぶ、働くを考えようと、あくまでも議会だよりに載せるようなネーミングでございますので、柔らかく、そういう形で出すのがいいかなというところで、今、話を進めておりますが、何かまたこの件につきまして皆さんから御意見ありましたらお願いしたいと思います。

参加者とかその対象、さらにどういった形で進めていくかはまだこれから進めていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

一応、進行形ではございますけれども、取りあえず今議会終了までに議会だよりに載せるための題目だけは出さないといけないということもあわせて。

○委員（川上文浩君） 日にちがもう確定しないと、明日、議会運営委員会に出さなくちゃいけない、そんなことない。厳しいね、やっぱり各委員会。日にちはどう、確定しなくていい。

○委員長（山根一男君） もしこの20日か27日でどちらがいいかという、人づくり課と協議しまして、そのようにしてもらおうということにはなるかと思っておりますけど、皆さんの中で御都合

といいますか、時期的なものありますか。

○委員（川上文浩君） じゃあ、20日、27日ということにしておいて、これは正・副委員長に任せるので、事務局と。それをどちらかで、向こうの都合に合わせて調整してもらって、議会運営委員会に出してもらって、また一般市民にも参加してもらわなくちゃいけないので、そのどちらかで早急に決めてもらえればというふうに思います。

皆さんはよろしいですかね。20日、27日でね。

○委員長（山根一男君） 20日か27日と押さえてありますので、今のことを踏まえまして、人づくり課のほうの予定と照らし合わせながら正副、事務局交えて決めたいと思いますので、よろしくをお願いします。

以上でよろしいですか、今の件。

〔挙手する者なし〕

はい。じゃあまた報告させていただきます。

では、その他何かございますか。

○委員（川上文浩君） 酒井委員とちょっといろいろ話していた中で、私はメンバーには入っていませんでしたが、今回の予算決算委員会で提案した提言が残念ながらカットされたという部分があったんですけど、酒井委員のデータを基にいろいろ見てみると、やはり西可児地域のバス路線、これは非常にやっぱり利用客が減っていて、そして本数が物すごく減っているんです。ということは、それもやはり、何かその利用増に当たって努力したのかどうのこのというのなかなか見えてこなくて。本数が減れば基本的にどんどん利用客が減っていくのは当たり前だし、やはりその利用の部分に関して、大学がせっかくできたのに、そこを生かしているかということ、それもなかなかちょっとクエスチョンがあるので、ぜひ委員会の所管事務に加えていただいて、全体も含めてですけれども、特に西可児地域のバス路線ということで含めていただいて調査に入っていただきたいということと、その調査をしていく上で必要があるのであれば、代表質問などにつなげていくような形ができれば。ありきではないですが、ただ、やはりどうしてじゃあそこまで便数が減ったのか、700万円の補助金というのはもう何十年も700万円ですうっと来ています。ではその利用はどうなんだ、住民の困り度はどうなんだということを、これは一度、委員会としてフォローしていく必要があるんじゃないかと思うんですけれども、いかがでしょうかという提案です。

○委員長（山根一男君） 今の件。

○委員（伊藤 壽君） 今、川上委員がおっしゃったように、酒井委員のほうから予算決算委員会で出た話です。私は委員会で、よりその問題をもっとしっかり深めていただいて、意見なり提案なりできれば一番いいんですが、やっぱりこの委員会でもう少し深めていただきたいというのは私も考えます。以上です。

○委員長（山根一男君） ありがとうございます。

○委員（酒井正司君） 全く同じ意見なんですけど、まず、一番問題というのは僕は2つあると思うんですよ。

まず1つは、確かに2年間でほぼ半分になっちゃったと。これは実は私、去年、この質問をしているんですよね。負のスパイラルに入っちゃった、どうしますかって。そうしたら、議会のトビラ82号を見ていただきたいんですが、前向きに検討しますというような答弁が書いてあります。この間の予算決算委員会で課長に聞いたところ、1年間何もやりませんでしたと。ここが私の一番の問題。しかし、ここ十何年、多分同じ金額の700万円の助成金が出ていると。費用対効果なんて一切検証されていないね。それで住民が困って、結果、調べたら分かると思いますが、バスと電車がリンクしないもんだから、車で犬山へ行っちゃっているんですよ。ということは、こちらの路線がいわゆる過疎化しているんですよね。衰退しているんですよ。とんでもない大きな影響が出ているということですよ。

それとゆうべ、夏祭りで連合会長とかにいろいろお話を聞いたら、とんでもないことが起きておるんやと、議会は何をやっておるんやと逆にお叱りを受けまして、いや、一生懸命やっているんだけどどうまくかみ合わなくて、また新しい方策を今考え中なんで、もう少し時間を下さいというお話をしてきました。

それともう一点、これはこの場でのこととはちょっと違うかと思うんですが、分科会で満場一致で出たものが、私、富田委員のあれは反対ではなかったと思うんですよ。何かローカルな問題なので、市全体の公共機関に広げるべきだという、僕はある意味での提案だったと思うのね。そうやけど、結果的に提言には盛り込まれなかったという。そうすると、分科会なんてそんな軽いものなのという、しかも満場一致というのは理想ではあるけれども、大多数の賛同意見は抹殺されちゃうという非常に機能不全に陥るんで、この制度、例えばの話、5分の4の賛成なら提言に盛り込むとか、制度改革が必要ではないかと。ここでの委員会と直接関係ないんですが、一言お願いしておきます。

○委員長（山根一男君） ほかに発言はないですか。今の件。

○委員（伊藤健二君） 予算決算委員会と分科会のまとめをやり取りした結果として、富田委員から発言も出て、何かすっきりしない状態で終わったというのは事実、私もそういう同感です。

すっきりしないので、財政的にはどういう金が動いてどうなっているということいろいろ調べてみると、市の一般会計予算の中にあるけれども、入りのほう、助成金のもとのほうは、特別交付税、交付税の中の特別部分に項目指定で地方の路線バスとかいろいろあるんだけど、この話題になった西可児のバスみたいなやつは、700万円については特別交付税関係へ入っていないんやね。あくまでY A Oバスだとか、名鉄広見線だとか、あれやこれやの金をトータルすると8,000万円とかいう金が入ってきておるわけですよ。

だから、全く別枠で、地域住民が要求して市が金を出すようになったという、どうもそういう経過らしい。財政課にちょっとどうなっておるのこれと言ったら、いや、特別今のところ何もありませんということしか聞いていないもんで、ちょっとその入りと出の関係というよりも、地域の住民がどう何に困っているかということで、調査項目として今さっき提案をされたんで、それを受けて、事実整理をして、どこに着目しないといけないか議会はどう

ところで整理しないと、ちょっと議論が何か浮ついたままかみ合わずに終わっちゃっておるという状況かなと思います。

だから、提案には賛成なんで、またちょっと研究してみましようよ。以上です。

○委員長（山根一男君） よろしいですか。

私も同感でございましたんで、この問題、やはりこの委員会で話し合ったことではありますので、ぜひ所管事項に取り上げていくということで、皆さんよろしいでしょうか。

〔挙手する者なし〕

ほかにも今後出てくると思いますので、そういった形でより今ある問題をさらに深めていけるような委員会であってほしいなと思います。

大変長くなりましたけど、ほかにその他のところで何かありましたら発言。

〔挙手する者なし〕

なければ、これにて建設市民委員会を閉じたいと思います。ありがとうございました。

閉会 午後0時18分

前記のとおり会議の次第を記載し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

令和4年9月26日

可児市建設市民委員会委員長